

心理学的支援法Ⅱ

2018～

科目コード

FF3557



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	秋田 恭子

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。

※2020年度より、スクーリングが8コマになります。

※この科目は、スクーリング受講にあたって条件がありますので、ご注意ください。

科目の概要

■科目の内容

心理療法是、今から100年前に誕生し、発展してきた学問領域です。他の科学と比べると若い学問領域であります。急速に理論と実践が発展してきています。それは、物が豊かになった現代社会において緊急課題となっている親子関係、対人関係、自分らしい生き方など、いわば「心のあり方」に関する事柄にこの学問領域が応えているからでしょう。

人間の心は、複雑に機能しつつもある程度のまとまりをもって機能しています。現代のような複雑な社会において、人間が人間らしく生きていこうとするといろいろな要因により心が十分に機能しなくなることがあります。心理療法とは、深刻な悩み、症状（身体症状も含めて）、問題行動、人格機能等を心理的側面から援助する学問です。人間が複雑な心の働きをするため、その接近法である心理療法も多種多様となります。

2019年の春には公認心理師の資格を取得した人たちが誕生します。公認心理師の科目名としては、従来の「心理療法」の科目名が「心理学的支援法」になります。そこで、心理学的支援法Ⅱでは、3つの代表的な心理療法を学習することを目的とします。

■到達目標

- 1) 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界を説明することができる。
- 2) 訪問による支援や地域支援の意義について説明することができる。
- 3) 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法について述べるすることができる。
- 4) プライバシーへの配慮について説明することができる。
- 5) 心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援について解説できる。

■教科書「心理学的支援法Ⅰ」と共通のため、この科目での教科書配本はありません

末武康弘『心理学的支援法—カウンセリングと心理療法の基礎』誠信書房、2018年
(スクーリング時の教科書) 上記教科書を参考程度に使用します。

■履修登録条件

この科目は、受講条件の達成に必要な科目をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「集団理解に基づく対人調整力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%+スクーリング評価or科目修了試験60%

■参考図書

(第6章・第7章)

ヴィクトル・フランクル著 赤坂桃子訳『ロゴセラピーのエッセンス』新教出版社、2016年

畠瀬稔著『エンカウンターグループと心理的成長』創元社、1990年

倉戸ヨシヤ『ゲシュタルト療法—その理論と心理臨床例 (二十一世紀カウンセリング叢書)』駿河台出版社、2011年

村瀬孝雄著『フォーカシング事始め—こころとからだにきく方法』金子書房、1996年

村瀬孝雄・阿世賀浩一郎「体験過程とフォーカシング」上里一郎・鑪幹八郎・前田重治編著『臨床心理学大系8 心理療法2』金子書房、1999年

村山正治著「エンカウンターグループ」上里一郎・鑪幹八郎・前田重治著『臨床心理学大系8 心理療法2』金子書房、1999年

ロジャース、C. R. 著 畠瀬稔・畠瀬直子訳『エンカウンターグループ』創元社、1982年

佐治守夫・飯喜一郎編『ロジャースクライエント中心療法』有斐閣、1988年

末武康弘・保坂亨・諸富祥彦訳『カウンセリングと心理療法』(ロジャース主要著作①巻) 岩崎学術出版社、2005年

末武康弘・保坂亨・諸富祥彦訳『クライエント中心療法』(ロジャース主要著作②巻) 岩崎学術出版社、2005年

末武康弘・保坂亨・諸富祥彦訳『ロジャースが語る自己実現の道』(ロジャース主要著作③巻) 岩崎学術出版社、2005年

(第8章)

<フロイト>

土居健郎著『新訂 方法としての面接』医学書院、1992年

福本修監訳『フロイトを読む—年代順に紐解くフロイト著作』岩崎学術出版社、2013年

前田重治編『カウンセリング入門』有斐閣選書、1986年

妙木浩之著『フロイト入門』ちくま新書、2000年

妙木浩之著『初回面接入門』岩崎学術出版社、2010年

M. カーン著、妙木浩之監訳、秋田恭子・清水めぐみ訳『ベーシック・フロイトー21世紀に活かす精神分析の思考ー』岩崎学術出版社、2017年

<ユング>

河合隼雄著『ユング心理学入門』培風館、1967年

河合隼雄著『箱庭療法入門』誠信書房、1969年

河合隼雄著『カウンセリングの実際問題』誠信書房、1970年

鈴木晶著『フロイトからユング』日本放送出版協会、1999年

<アドラー>

岸見一郎著『アドラー心理学入門』KKベストセラーズ、1999年

野田俊作著『アドラー心理学を語る1〜4』創元社、2017年

<新フロイト派>

E. フロム著 鈴木晶訳『愛するということ』紀伊国屋書店、1991年

K. ホーナイ著 霜田静志訳『自己分析』誠信書房、1981年

H. S. サリヴァン著 中井久夫共訳『精神医学的面接』みすず書房、1986年

<その他>

W. R. D. フェバーン著 相田信男・栗原和彦訳『対象関係論の源流ーフェアバーン主要論文集』

『メラニークライン著作集1〜7巻』誠信書房

丸田俊彦著『コフト理論とその周辺ー自己心理学をめぐって』岩崎学術出版社、1991年

M. リカーマン著 飛谷渉訳『新釈 メラニークライン』岩崎学術出版社、2014年

館直彦著『ウィニコットを学ぶ』岩崎学術出版社、2013年

『ウィニコット著作集1〜8巻 別冊2巻 書簡集』岩崎学術出版社

(第9章)

藤山直樹・伊藤絵美著『認知行動療法と精神分析が出会ったらーこころの臨床達人対談』岩崎学術出版社、2016年

伊藤絵美著『ケアする人も楽になる 認知行動療法入門 BOOK 1』医学書院、2011年

大野裕著『こころが晴れるノート：うつと不安の認知療法自習帳』創元社、2003年

山上敏子著『方法としての行動療法入門』金剛出版、2007年

(その他)

窪内節子・吉武光世共著『やさしく学べる心理療法の基礎』培風館、2003年

村上伸治著『現場から考える精神療法ーうつ、統合失調症、そして発達障害』日本評論社、2017年

M. F. ソロモンほか著、妙木浩之・飯島典子監訳『短期力動療法入門』金剛出版、2014年

S. F. アッシャー著、岡野憲一郎監訳・重宗祥子訳『精神力動的サイコセラピー入門』岩崎学術出版社、2018年

H. ピンスカー著 秋田恭子他訳『サポーター・サイコセラピー入門』岩崎学術出版社、1997年

P. ペリー著 鈴木龍監訳『まんがサイコセラピーのお話』金剛出版、2013年

瀧本孝雄著『カウンセリングへの招待』サイエンス社、2006年

氏原寛・成田義弘共編『臨床心理学①カウンセリングと精神療法』[心理治療] 培風館、1999年

上里一郎・鑪幹八郎・前田重治編『臨床心理学大系7 心理療法1』金子書房、1990年
吉田弘道著『心理相談と子育て支援に役立つ 親面接入門』福村出版、2013年

スクーリング

■スクーリング受講条件

- 1) スクーリング申込締切日までに「心理学概論A」「心理学概論B」「福祉心理学」「臨床心理学概論1」4科目のレポート提出済であること。
- 2) 事前(同時期も可)に「心理学的支援法1」のスクーリングを受講していること。

■スクーリングで学んでほしいこと

様々な心理療法があり、それぞれの理論的背景、アプローチの違いを習得してほしい。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	心理療法の概要と実際①	クライアント中心療法・フォーカシング・エンカウンター、ビデオ学習
2	心理療法の概要と実際②	カール・ロジャースの面接、ビデオ学習
3	心理療法の概要と実際③	認知行動療法、ビデオ学習
4	心理療法の概要と実際④	心理学的支援法のプロセスと実際
5	心理療法の概要と実際⑤	箱庭療法・内観療法・森田療法、ビデオ学習
6	心理療法の概要と実際⑥	プレイセラピー、ビデオ学習、ブリーフセラピー
7	心理療法の概要と実際⑦	アウトリーチ・危機介入と心のケア
8	心理療法の概要と実際⑧	心理教育およびレポートについて
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

配付レジュメを用いて講義を進めます。それぞれの療法の場面のビデオをみます。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100% (自筆ノートのみ持込可)。

テストには、スクーリング中に見ていただくカール・ロジャースの面接場面のビデオについての出題が含まれます。そこには、到達目標にある、クライアント中心療法の特徴を捉えた上で、自分自身の見解をどれぐらい論述できるかについて問います。

■スクーリング事前学習 (学習時間の目安: 5~10時間)

教科書には目を通してきてほしい。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	心理学的支援法の主要理論（その1）第6章1	心理学的支援法の基礎としてのパーソンセンタードセラピーセラピーはどのようなものを学ぶ。パーソンセンタードセラピーの歴史的発展についてその概要を学ぶ。	心理療法の歴史の中でパーソンセンタードセラピーの位置づけについて理解する。
2	心理学的支援法の主要理論（その1）第6章2(1)(2)	パーソンセンタードセラピーの主要な理論を学ぶ①。	パーソンセンタードセラピーの自己理論と支援理論について理解する。
3	心理学的支援法の主要理論（その1）第6章2(3)	パーソンセンタードセラピーの主要な理論を学ぶ②。	パーソンセンタードセラピーのプロセスについて理解する。
4	心理学的支援法の主要理論（その1）第6章3	パーソンセンタードセラピーの方法を学ぶ。	非支持的応答や一致とプレゼンスについて理解する。
5	心理学的支援法の主要理論（その2）第7章1	パーソンセンタードセラピーの発展的方法を学ぶ。パーソンセンタードアプローチ（PCA）とはどのようなものを学ぶ。	エンカウンターグループおよびパーソンセンタードアプローチ（PCA）とはどのようなものかについて理解する。
6	心理学的支援法の主要理論（その2）第7章2	ロジャース以後のパーソンセンタードの主要な発展を学ぶ①。	体験過程の理論、フォーカシングについて理解する。
7	心理学的支援法の主要理論（その2）第7章2(4)	ロジャース以後のパーソンセンタードの主要な発展を学ぶ②。	体験的セラピー、エモーションフォーカストセラピー、プリセラピーについて理解する。
8	心理学的支援法の主要理論（その2）3	パーソンセンタードセラピー以外の主要なヒューマニスティックセラピーを学ぶ。	ゲシュタルトセラピー、現存在分析、ロゴセラピーについて理解する。
9	心理学的支援法の主要理論（その3）第8章1(1)(2)	精神分析およびそこから発展してきた精神力動的な理論とはどのようなものを学ぶ。	精神分析および精神力動的なセラピーとは何か、精神分析の基本的な理論（局所論・力動論・エネルギー経済論）を理解する。
10	心理学的支援法の主要理論（その3）第8章1(1)(2)	精神分析およびそこから発展してきた精神力動的な理論とはどのようなものを学ぶ。	精神分析の基本的な理論（発達論・構造論・防衛機制論）を理解する。
11	心理学的支援法の主要理論（その3）第8章1(3)	精神分析から発展した精神力動的な理論を学ぶ①。	自我心理学、対象関係論を理解する。
12	心理学的支援法の主要理論（その3）第8章1(4)	精神分析から発展した精神力動的な理論を学ぶ②。	ユングの分析心理学、アドラーの個人心理学、新フロイト派について理解する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
13	心理学的支援法の主要理論（その4）第9章1	認知行動療法とはどのようなものであり、どのように発展してきたのかを学ぶ。	認知行動療法とは何か、その歴史を理解する。
14	心理学的支援法の主要理論（その4）第9章2	認知行動療法の主要な理論を学ぶ。	行動療法の理論、認知的アプローチの理論を理解する。
15	心理学的支援法の主要理論（その4）第9章3	認知行動療法の主要な方法を学ぶ。	レスポナント条件づけに基づく方法、オペラント条件づけに基づく方法、応用的な諸方法を理解する。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
2 単位め	心理学的支援法のうち、精神力動的セラピー、パーソンセンタードセラピーと認知行動療法の3つの療法のそれぞれについて、主な理論と方法について2000字程度でまとめなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1単位めアドバイス 教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。
また、教科書巻末の用語集をよく読んでください。各章の末尾の理解度確認テストで8問以上正解できるようにしてから、客観式レポート課題に解答してください。
教科書でわからないところは参考文献を読み、理解を深めてください。

2単位めアドバイス 心理療法の3つの代表的な療法です。様々なテキストでとりあげられています。それらも参考にしながら、とくに参考図書でとりあげられている本をよく読んでください。また余裕があれば原著の翻訳を読んで書いてください。そして、それぞれの療法の違いを明確に書いてください。

科目修了試験

■評価基準

用語と内容を正しく理解し、記述していること。また、具体例を求められている問題では、具体例と全体的な説明の両方が的確に関連付けられ、記述されていることが評価されます。